

結城紬デザインフォーマル化共同研究

石川 章弘* 望月 政夫* 花田 毅**

1. 緒言

結城紬は着物の最高級品と言われながら、普段着として位置づけられているため、フォーマルとして着られていないのが現状である。そこで結城紬の市場開拓を図るため、デザインのフォーマル化を検討した。平成6年度から平成9年度までの結城紬デザインフォーマル化の研究の検討結果を参考に、糸使いと柄を考慮して試作した。紺のような高額なものではなく、低価格で、良い製品を目指した。

また、試作品の評価を求めるために、市場調査を行った。

2. 方法

本場結城紬の帯を地機で2本、いしげ結城紬の反物を高橋式織機で2反試作した。

2.1 糸使い

本場結城紬の帯に使用した糸は表1、いしげ結城紬に使用した糸は表2の通りである。

表1 本場結城紬の帯の糸使い

| | | |
|-----|-----|-------------|
| たて糸 | 手紬糸 | 208~286デニール |
| よこ糸 | 手紬糸 | 270デニール |

表2 いしげ結城紬の糸使い

| | 地 | 格子 |
|-----|------------------|-----------------|
| たて糸 | 手紡糸 154.9デニール | 生糸 142.3デニール |
| よこ糸 | 手紡糸 199.4デニール | 生糸 130.8デニール |

2.2 試作の方法

本場結城紬 結び紺調帯 (図1)

たて糸及びよこ糸を織っている途中で違う色に結び変えて柄を表現した (図2)

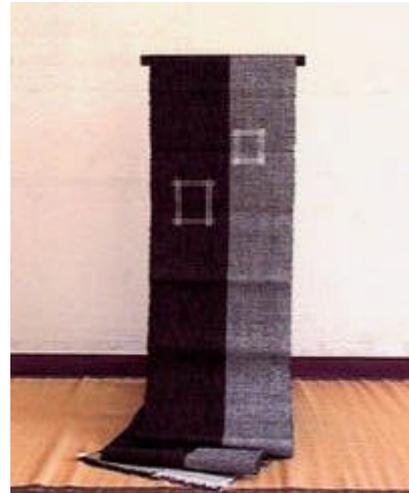


図1 結び紺調帯

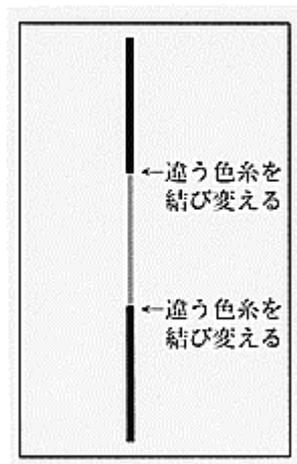


図2 結び紺の作り方

本場結城紬 つづれ織調帯 (図3)

結び紺調帯が糸をつなぎ直して柄を出したのに対して、この帯はよこ糸を帯の途中で切り返して柄を出す方法である (図4)

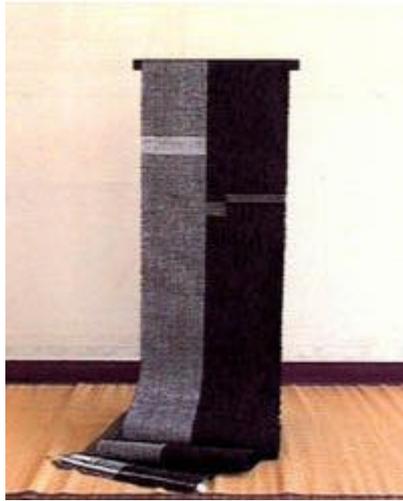


図3 つづれ織調帯



図6 格子柄着尺（若竹色）



図4 切り返し柄の作り方

いしげ結城紬 格子柄着尺（図5，図6）

この反物は細かい格子が入っているが，図では格子が写っていないので，拡大図を図7に示す。

色味については，図5が青ねず色の地に若竹色の格子で，図6が若竹色の地に青ねず色の格子である。

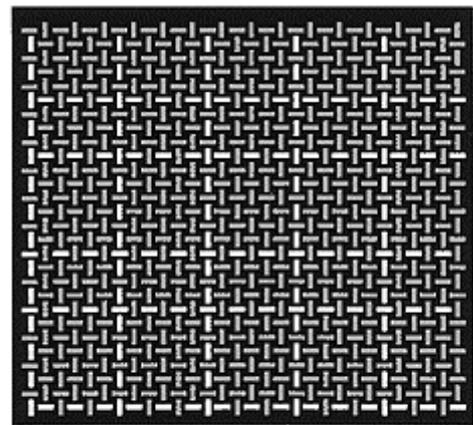


図7 格子の拡大図



図5 格子柄着尺（青ねず色）

2.3 調査

試作品を東京及び京都の集散地問屋と小売店，計6店に持参し，調査を行った。各社の種別は表3の通りである。

また，この調査にあたって，いしげ結城紬の1反を糊抜きし，後の3点は生機のみで調査した。

表3 各社の種別

| | | |
|-----|-----|------------|
| A社 | 東京都 | 織り中心の集散地問屋 |
| B " | " | 大店舗の小売り |
| C " | " | 小店舗の小売り |
| D " | 京都市 | 小売りの卸商 |
| E " | " | 織り中心の集散地問屋 |
| F " | " | 織り中心の集散地問屋 |

3. 結果と考察

3.1 試作品について

結び緋調帯とつづれ織調帯

反物1反ごとに違った柄を創作できる方法であり，緋糸を作る手間を省け，コストを下げることが出来た。

産地では，糸の取り手の高齢化により，細工緋には使用できない太い糸が多くなってきている問題がある。そのよ

うな太い糸を活かした製品を作ることによって、産地内の糸の回転率を良くする。また、太い糸を使うことでザックリとした風合いを醸し出すことができた。

いしげ結城紬 格子柄着尺

遠くから見て無地に見えるが、近くで見ると細かい格子が入っているのが特徴である。地味なようだが着る人を選ばず、飽きずに永く着られるようなデザインとした。

格子に生糸を使うことで、手紡糸の柔らかな風合いを保ったまま微妙な光沢を得ることが出来た。

3.2 調査

表4にまとめた通りである。

4. 結 言

今回の研究では、結城紬のフォーマル製品化により市場の開拓を狙った。しかしながら現在の市場では、たとえフォーマル的な柄であっても、結城紬はフォーマルとして一

般的には受け入れられていない。実際に小売商や問屋を調査した結果からも、そのことは伺い知ることが出来た。

結城紬がフォーマルとして成り立たない理由として、結城紬の歩んできた歴史や着物業界のしきたりなど、製品の努力だけでは乗り越えられない高い壁がある。

試作品の本場結城紬帯は、太い糸が幸いして非常によい風合いを得ることが出来た。いしげ結城紬着尺は、男物の新柄として好評価した問屋もある。また風合いに関しては、どの問屋でも良い評価を得た。

今回の共同研究で試作したものは、フォーマルとしては難しい面があるが、製品としては良いものが出来上がったという成果が得られた。

共同研究者である藤貫株式会社では、今後も製品化をしていく方向で検討しており、デザインに関して支援していく予定である。

・ 結城紬のフォーマル化について

表4 調査結果

・ 結城紬のフォーマル化について

| | |
|-----|--|
| A社 | 結城紬はフォーマルにはなり得ない。素材感を重視する方向で考えるのがよい。 |
| B " | 無理である。 |
| C " | 紬でフォーマルは無理である。 |
| E " | 緋で絵羽織に生産したものもあるが、擦れたら仕立て直せるといふ袖の着物の良さが活かせない。 |
| F " | 糸の節目があるのでフォーマルとはいえない。 |

・ 帯の試作品について

| | |
|-----|--|
| D社 | 帯よりも着尺の柄の方が良いのではないか。 |
| F " | とても良い風合いである。結び目が立体的になっている点が良いと思う。緋で平面的に見えてしまうのでは面白味に欠ける。 |

・ いしげ結城紬の試作品について

| | |
|-----|----------------------------|
| B社 | 17~18万円台で売れる。 |
| C " | 風合いは良いと思う。 |
| D " | とても良い風合いである。男物としては珍しい柄でよい。 |
| E " | 風合いがいい。 |
| F " | 良い風合い。 |